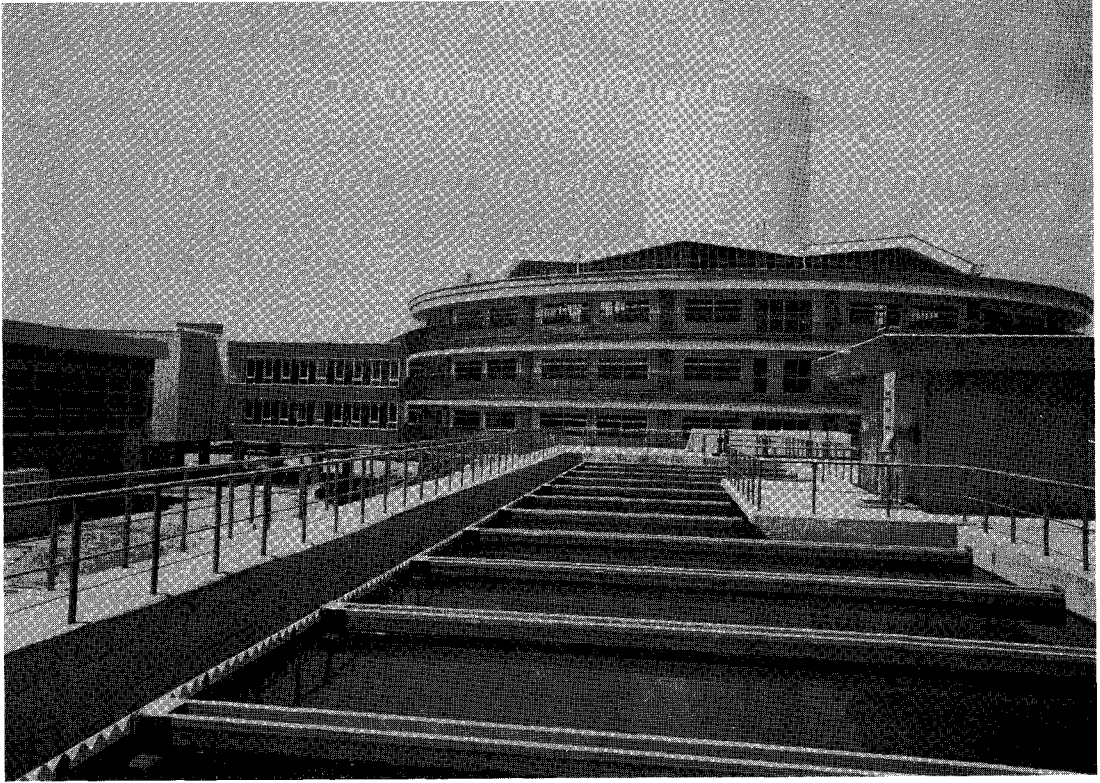


仙台市水道第 4 次拡張事業完成



1

建設省直轄事業として施行される多目的ダム釜房貯水池（総貯水容量 4 530 万 m^3 ）を水源とし、昭和 41 年度に工期 10 ヶ年を以て着手した仙台市水道第 4 次拡張事業は、ダムの竣工・湛水を待って本年 5 月 1 日から試験導水を開始し、7 月 1 日に茂庭浄水場（写真－1）において待望の通水式を挙行了。本浄水場は 1 日最大給水量 20 万 m^3 の施設能力を持つものであって、釜房ダム貯水池から可動式取水口（写真－2）を備えた高さ 43 m の取水塔により任意の水深から原水を直接取水し、約 10 500 m の導水路によ



2

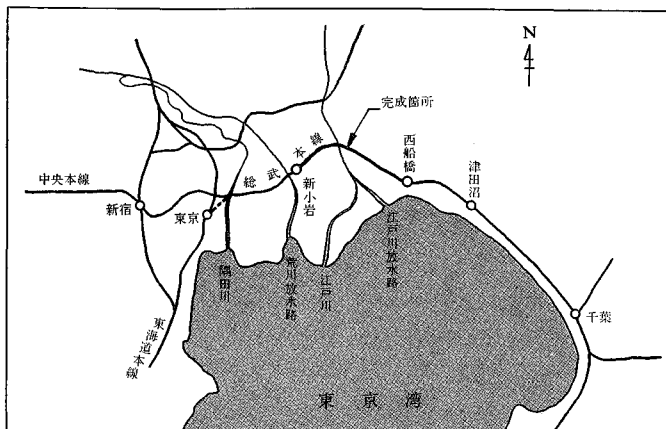
り自然流下方式を以て浄水場に導いて、高速沈殿池 6 池、急速ろ過池 20 池、配水池 8 池を設けて浄水するのであるが、これら各施設の操作は取水から浄水に至るまでのすべてをコ

ンピューティング・ロガーによって集中管理されている。
本文ニュース欄参照。

総武本線新小岩～西船橋間 2 線高架使用開始さる



千葉方面から東京への急増する乗客をさばくため、かねて工事中であった総武本線東京～津田沼間の線路増設工事のうちの主力新小岩～西船橋間高架化工事がこのほど完成、7月12日から使用を開始した。今般開通した区間約9.8kmのほとんどは連続4線高架区間であり、そのうちの新線部分がこのたび使用開始となったものである。使用開始に伴う切換工事は、使用開始4日前から道路交通止めにした第二小岩架道橋をはじめ、早朝、夜間工事等を併用して効率よく実施された。本工事の完成によって、平面交差箇所が減少したこ



とは、今後の道路交通に対しても有意義である。詳細は本文ニュース欄を参照されたい。

内容・主旨紹介

今月号の掲載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

特集・海洋開発シンポジウム／海洋開発委員会

土木学会誌 第55巻第9号, pp. 2~38, 昭和45年9月 (Sept. 1970)

本特集は昭和45年4月18日, 土木学会において開催した土木学会海洋開発委員会主催による海洋開発シンポジウムに発表された論文を学会誌むきに改筆したものである。

1. 海中構造物の設計一波力について(合田良実)では, アメリカ合衆国を中心にして研究が進められていた海底石油の採掘などに関連した波力の質定方式の標準的な考え方を紹介した。
 2. 海底測量(丸安隆和・村井俊治)では, 海底測深の歴史, 測深と位置の関係, 写真測量の可能性, 超音波の利用法, ソナー(SONAR)の種類とその利用法および精密海底地形測量の問題点, ソナーによる測量に関して将来行なうべき開発研究の目標などを述べている。
 3. 海洋の汚染について(杉木昭典)では, 海水の成分から説きおこし, わが国の水の環境基準, 微量成分による海洋の汚染, を述べ現状を分析している。
 4. 人工魚礁(加藤重一)では, 人工魚礁の歴史, 人工魚礁の目的理念と人工魚礁の特質をわきまえることを強く訴えている。
- そのほか海洋構造物について(文献調査委員会)では, 国内および世界各国の文献を通じてみた現状を解説している。
-

特集・土木学会昭和45年度全国大会

合同部門研究討論会研究資料／土木学会昭和45年度全国大会実行委員会事務局

土木学会誌 第55巻第9号, pp. 39~65, 昭和45年9月 (Sept. 1970)

本特集は昭和45年11月6日~11月8日にわたり関西地区で開催される, 土木学会昭和45年度全国大会における合同部門研究討論会の内容を, 当日の討論が円滑に進められることを希望して話題提供者が事前に資料として作成したものであり, 関係者の参加を広く呼びかけている。

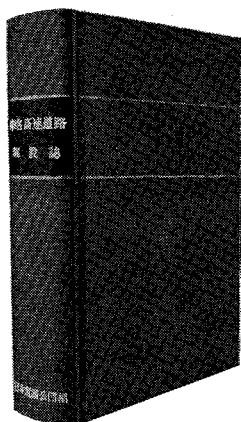
- I. 土木工学における不規則現象とその評価では, 後藤尚男を司会とし, 1. 土木計画における不確実性とその評価(長尾義三), 2. 水工学における不規則現象とその評価(岩垣雄一), 3. 構造工学における不規則現象とその評価(伯野元彦)が話題としてとりあげられている。
- II. 土木工事における騒音振動問題では, 伊藤富雄を司会とし, 1. 現場の第一線における諸問題(その1・道田淳一), 2. 現場の第一線における諸問題(その2・大北五郎), 3. 騒音の問題に関する総括(山本剛夫), 4. 振動の問題に関する総括(畠山直隆)が話題としてとりあげられている。

以上の問題はそれぞれ当日の討議をへて改めて学会誌56巻2号に総括報告として発表される予定である。

道路公団編集
土木学会発行

東名高速道路建設誌

最新刊



B 5 判 ■ 本文 1024 ページ ■ 写真 48 ページ
(カラー 16 ページ) ■ 折込 2 枚 ■ 特上製豪華本・限定出版

総論 / 各論 / 資料編に分け高速道路の
マニュアルとして記述

定価 11500 円 会員特価 9500 円 (〒 300 円)

東名高速道路建設誌を発行するにあたって

社団法人土木学会 会長 柳 沢 米 吉

東名高速道路 346.7km が全線開通してからほぼ 1 年、7 年の歳月と 3,425 億円の巨費をつぎ込んだこの大動脈は、39 年完成の名神高速道路と結ばれ、進展する日本経済の原動力としての機能を次第に果しつつある。

昭和 41 年 6 月、国土開発幹線自動車道建設法が成立し、公共投資の中では立遅れがとくにいちじるしかった幹線道路網の建設が決定、昭和 60 年までに 7,600km を整備し、国土の普遍的な開発をはかることとされているが、名神、中央道、東名などで開発された技術の集積は、これらの計画を推進するうえで大きなエネルギーとなるであろう。

この建設誌にも見られるように、わが日本列島は常にきびしい気象条件にさらされ、急峻な地形と複雑な地盤構成をもち、技術上の問題点もきわめて多い。それらの条件に加えて用地取得の困難、行政区分の多様化、予算の枠など、大規模な公共事業を期限までに完成させるための苦労は、東名においても例外ではなかったようである。東名高速道路の実現のために払われたすべての関係者各位の御努力ならびに、勤務のかたわら、短期間にぼう大な資料を要領よくとりまとめられた執筆者各位の御熱意に対し深甚なる敬意を表する次第である。

この建設誌は、日本道路公団試験所の御厚意により、特別に再印刷の許可をうけて公刊したものであることを付記し、謝意を表するとともに、本建設誌に盛られた多くの教訓が今後建設されるであろう新しい高速道路の建設に際し、広く活用されることを念願してやまない次第である。

この建設誌は、会長序文にもありますように、きわめて限られた部数しか再印刷の許可を得ておりません。すでに出版した若戸橋調査報告書・工事報告書、工事報告黒部川第四発電所、工事報告・天草五橋、本州四国連絡橋技術調査報告書など、この種の出版物は比較的早い期間に全部品切れとなっている実績からみて、申込みは極力お早目をお願いします。本書も再版はできません。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷 1 丁目

電話 351-4131 (直)

振替 東京 16828



土木学会

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	11月 6 日 (金) ～ 9 日 (月)	昭和 45 年度全国大会	大 阪 市	9号会告 2 参照
	11月 12 日 (木) ～ 13 日 (金)			
	11月 26 日 (木) ～ 27 日 (金)	第 17 回海岸工学講演会	新 潟 市	9号会告 5 "
北 海 道 支 部	10月 9 日 (金)	見 学 会	札 幌 地 区	9号会告12 "
	10月 28 日 (水)	講 演 会	札 幌 市	9号会告12 "
東 北 支 部	10月 6 日 (火)	見 学 会	宮 城 県	9号会告12 "
	10月中旬	講演会・映画会	仙 台 市	9号会告12 "
	11月 12 日 (木)	技 術 講 座	同	9号会告13 "
関 東 支 部	10月 15 日 (木) ～ 16 日 (金)	見 学 会	新 潟 県	9号会告13 "
	12月 2 日 (水) ～ 3 日 (木)			
中 部 支 部	10月 16 日 (金)	第 2 回講演会	静 岡 市	9号会告14 "
	11月 20 日 (金)	講 習 会	名 古 屋 市	9号会告14 "
関 西 支 部	11月 17 日 (火) ～ 18 日 (水)	講 習 会	大 阪 市	9号会告15 "
そ の 他	10月 23 日 (金) ～ 24 日 (土)	第 20 回応用力学連合講演会	東 京	9号会告16 "
	11月 17 日 (火) ～ 20 日 (金)	第 3 回日本地震工学シンポジウム	同	9号会告 7 "
	11月 26 日 (木) ～ 27 日 (金)	第 3 回岩の力学国内シンポジウム	京 都 市	9号会告 9 "
お 知 ら せ	■第 4 回国土開発映画コンクール作品募集 ■第 7 回災害科学総合シンポジウム講演募集 ■第 17 回橋梁・構造工学研究発表会論文募集 ■第 17 回風に関するシンポジウム講演募集 ■第 7 回衛生工学研究討論会論文募集 ■第 15 回水理講演会講演募集 ■アルミナセメントに関するシンポジウム			9号会告 4 " 9号会告 8 " 9号会告 9 " 9号会告10 " 9号会告11 " 9号会告11 " 9号会告11 "

映 画 会 開 催 中 止 に つ い て

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第 2 土曜日に映画会を行なっておりますが、10 月は都合により中止しますのでご了承下さい。

土木学会昭和 45 年度全国大会

◀ 11 月 6 日 (金) ~ 11 月 9 日 (月) ▶

(1) 特別講演会 (会場：日本生命中之島研修所 3 階講堂)

11 月 6 日 (金)

9.00~10.00

① 東海道新幹線が生まれるまで 土木学会会長 大 石 重 成

10.00~11.00

② 古代の土木 奈良国立文化財研究所 坪 井 清 足

11.00~12.00

③ 土木と環境変革 作 家 小 松 左 京

(2) 第 25 回年次学術講演会

第 I 部門 (会場：日本生命中之島研修所)

第 II 部門 (会場：大阪科学技術センター)

第 III 部門 (会場：日本生命中之島研修所)

第 IV 部門 (会場：大阪科学技術センター)

第 V 部門 (会場：日本生命中之島研修所)

11 月 6 日 (金) 13.00~16.10

7 日 (土) 9.00~17.25 } 講演数 785 題

8 日 (日) 9.00~16.20

プログラム：当日来聴者に配布 (無料)

(3) 合同部門研究討論会

(会場：日本生命中之島研修所 3 階講堂)

題目 I 土木工学における不規則現象とその評価

11 月 6 日 (金) 16.30~18.30

- 話題提供
1. 土木計画における不確実性とその評価
 2. 水工学における不規則現象とその評価
 3. 構造工学における不規則現象とその評価

司 会：京都大学教授 工博 後 藤 尚 男

副司会：大阪大学講師 神 田 徹

題目 II 土木工学における騒音、振動問題

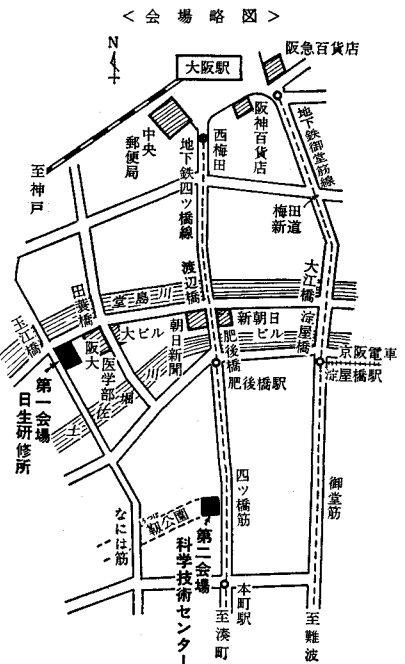
11 月 8 日 (日) 16.30~18.30

- 話題提供
1. 現場の第一線における諸問題 (その 1)
 2. 現場の第一線における諸問題 (その 2)
 3. 騒音の問題に関する総括
 4. 振動の問題に関する総括

司 会：大阪大学教授 工博 伊 藤 富 雄

副司会：大阪府公害監視センター 工博 中 村 隆 一

話題内容：当日来聴者に配布 (無料)



京都大学教授 工博 長 尾 義 三
 京都大学教授 工博 岩 垣 雄 一
 東京大学助教授 工博 伯 野 元 彦

大阪市交通局 道 田 淳 一
 (株)大林組 大 北 五 郎
 京都大学教授 医博 山 本 剛 夫
 立命館大学教授 工博 畠 山 直 隆

(4) 懇 親 会 (会場：新大阪ホテル)

11 月 7 日 (土) 18.30~20.30 立食パーティ

(5) PR 展示会 (会場：大阪科学技術センター 8 階ロビー)

11 月 6 日 (金), 7 日 (土), 8 日 (日) 9.00~17.00

展示内容

阪神高速道路路線図、南港連絡橋、安治川水門、境・泉北臨海工業地帯、寝屋川流域下水道、大阪市再開発、移動式門型く
い打ち機、1号線・4号線立体交差、複線型機械シールド、その他

(会場その他の都合により一部変更があるかも知れませんのでご了承下さい)

(6) PR 映画会 (会場：大阪科学技術センター8階小ホール)

11月6日(金)、7日(土)、8日(日) 10.00~16.00

上映映画

6日(金) 午後の部 (本州四国連絡)

希望の橋の陰に (第1部・第2部・第3部)、明石海峡海底記録、かけ橋の礎

7日(土) 午前の部 (鉄道・地下鉄・防潮水門)

のびゆく新幹線第1部、複線シールド、沈埋工法、深層に挑む——防潮水門の基礎、アーチ型水門

7日(土) 午後の部 (橋・道路・都市)

豊里大橋、海に架ける——神戸大橋建設の譜、西名阪道路、繁栄への道 (工事編・神戸編)、新しい町船場——中
央大通建設記録、世界の道路と都市——高速道路——

8日(日) 午前の部 (防災)

砂防、亀ノ瀬地すべり、地震と建築、地震予知への道

8日(日) 午後の部 (トンネル・ダム)

レーザーによる岩石破壊実験、地熱に挑む、くろよん総集編、九頭竜ダム、喜撰山揚水発電所建設記録 (第1部・
第2部)

(都合により一部変更があるかも知れませんのでご了承下さい)

(7) 見 学 会

① 現場見学会

第1コース (高速道路めぐり)	11月6日 午後	} の3回
	8日 午前、午後	
第2コース (大阪高潮対策事業)	11月7日 午前、午後の2回	
第3コース (大阪市高速電気軌道工事)	11月7日 午前、午後の2回	
第4コース (臨海開発めぐり)	11月8日 午前、午後の2回	
第5コース (寝屋川流域下水道工事)	11月8日 午前、午後の2回	

出発：大阪科学技術センター正面玄関前

② 旅行見学会

Aコース (美浜原子力発電所)	} 11月9日(月) 日帰り
Bコース (防災研究所、琵琶湖)	
Cコース (山陽新幹線、ポートアイランド)	

出発：阪神電鉄本社前

(8) 第25回年次学術講演会講演概要集

講演会に出席できない方でも、ある程度内容がわかるように、B5判にオフセット印刷した講演概要を、5分冊として頒布いたし
ます。

第I部：応用力学・構造力学・橋梁など	216題 約666ページ 定価1200円
第II部：水理・水文・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生など	198題 約572ページ 定価1100円
第III部：土質・基礎・土木機械・施工・トンネルなど	148題 約452ページ 定価900円
第IV部：道路・鉄道・都市計画・交通・測量など	105題 約276ページ 定価600円
第V部：土木材料・施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など	118題 約348ページ 定価700円

購入申込み：当日講演会場でも販売しますが、数量に制限がありますので前号(8月号)挿入の申込書を利用してお申し込み下さ
い。お申し込みは代金を添えて下記あて現金書留でお送り下さい。

9月30日以降は各冊送料100円が加算されます。

郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会刊行物頒布係 電話 東京(03)351-4131 番

第4回 国土開発映画コンクール作品募集

土木学会は過去3回にわたり「国土開発映画コンクール」を開催いたしておりますが、この業績にかんがみて、今年も映画コンクールを開催し、土木技術者および土木以外の人達にも最近の土木技術普及のあゆみを広く周知させ、あすの国土開発に寄与したいと考えておりますので、ふるってご応募下さるよう、また、関係の向きにおすすめ下さいますようお願い申し上げます。

これまでの優秀作品は土木学会「フィルムライブラリー」として活用しており、年間の視聴者は1万名以上にのぼっております。今後も今回の優秀作品を含め土木学会はもちろん、一般の活用を推進する予定であります。

コンクール応募要領

1. 内 容：国土開発に関し、主として土木事業のPRおよび土木技術を中心としたもの
 2. 規 格：16 mm フィルム（1968 年 10 月以降完成の作品に限る）
 3. 締 切：1970 年 9 月 30 日
 4. 申 込 先：社団法人 土木学会編集課宛（申込書は請求して下さい）（東京都新宿区四谷1丁目 電話 東京 351-5130）
 5. 審 査：土木学会内 映画審査委員会
 6. 賞：入賞作品約6編を選びその内から最優秀賞1編、優秀賞2編、準優秀賞3編を決定し、賞状ならびに賞牌を贈る（ただし該当作品のない場合は変更することがあります）。
 7. 発表会：1970 年 11 月 20 日
- 追 記：① 作品は完成次第ご連絡下さい。審査期日は追ってご連絡いたします。② 選定映画審査会におきまして「選定」されたフィルムのうち、応募要領に合致するものにつきましては、コンクール候補作品と致したいと思ひます。コンクール審査過程におきましてフィルムを再提出して頂きますので、よろしくご配慮下さい。

秋のエクスカーション

◀ 11月12日（木）～13日（金）▶

今回のエクスカーションは、関東支部と共催のもとに実施いたします。工事の最盛期にある、福島原子力発電所と小名浜港の見学は、最も好機と思われます。会員諸氏のご参加をおすすめています。

1. 期 日：1970 年 11 月 12 日（木）～13 日（金）
2. 集 合 場 所：常磐線大野駅前（12 日 13 時 30 分まで）
3. 見学コース：12 日 13 時 30 分大野駅前出発—13 時 40 分～16 時 30 分 東電福島原子力発電所見学 16 時 30 分同発—18 時湯本温泉着（新滝泊）
13 日 9 時新滝発—9 時 30 分～12 時 30 分 運輸省小名浜港見学 12 時 30 分～13 時 30 分（昼食）—14 時平駅
4. 解 散 場 所：常磐線平駅（13 日 14 時）
5. 定 員：50 名
6. 会 費：3 500 円
7. 申 込 方 法：参加希望者は 10 月 31 日（土）までに、会費を添えて 〒160 東京都新宿区四谷1丁目土木学会総務課あてお申込み下さい。なお期限前でも定員になり次第締切ります。

参考：往き（東京方面）○上野発 9 時 15 分—常磐線原ノ町行（急行ときわ3号）—大野着 13 時 25 分
帰（東京方面）○平発 14 時 37 分—平始発上野行（急行ときわ8号）—上野着 18 時 0 分

大学土木教育の方向を探る——その現状と問題点——

土木学会大学土木教育委員会編

内 容：

- 第Ⅰ章 大学土木教育に関するアンケートの集計結果 第Ⅱ章 欧米の大学土木教育 第Ⅲ章 大学土木教育に何を望むか
第Ⅳ章 結 語
資 料 編
第Ⅰ章 土木教育に関する解説ならびに統計 第Ⅱ章 官庁、会社、民間における土木教育の活躍状況 第Ⅲ章 全国土木系大学教員名簿 あとがき

定 価：700 円（〒70 円）発売中

第17回海岸工学講演会

◀ 11月26日(木)~27日(金) ▶

第17回海岸工学講演会は、つぎの日程により新潟市において開催致しますので、多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日: 1970年11月26日(木)~27日(金)
2. 会 場: 第1会場: 新潟県民会館(新潟市一番堀通り3の1)
TEL 0252-28-4481)
第2会場: 新潟県建設会館(新潟市学校町通2番町)
TEL 0252-22-7101)

3. 主 催: 土木学会海岸工学委員会

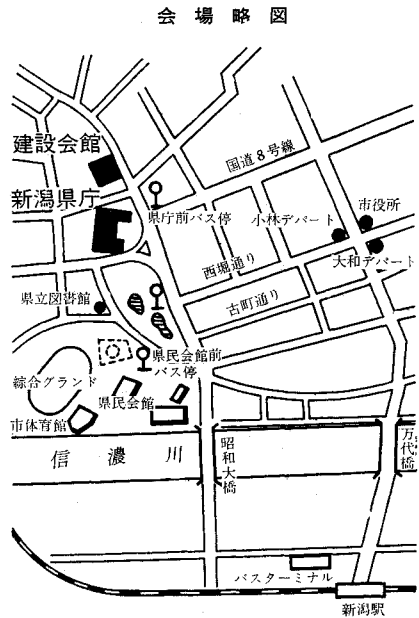
4. 講演題目: ○印は講演者

第1日: 11月26日(木) 第1会場(新潟県民会館)

- 9.00~9.10 開会あいさつ
土木学会海岸工学委員会委員長 岩崎敏夫
- 9.10~9.25 (1) 風速のスペクトルの発達(2) (有限な吹送距離における風波のスペクトルの形について)
九州大学応用力学研究所 光 易 恒
- 9.25~9.40 (2) 波面上の風速分布の数値計算
東京工業大学工学部 日野幹雄・○片岡真二
- 9.40~9.55 (3) 直線剪断法による風波の発生
東京工業大学工学部 ○日野幹雄・片岡真二
- 9.55~10.10 (4) 流れの中の風速に関する研究(1)
運輸省港湾技術研究所 ○加藤 始・佐野喜久雄
- 10.10~10.30 討 議 (1)~(4)
- 10.30~10.40 休 憩
- 10.40~10.55 (5) 数値計算による台風域内の波の分布について(Ⅱ)(実際の台風による検討) 九州大学工学部 井島武士・○田淵幹修
- 10.55~11.10 (6) 港湾工事のための波浪予報 北海道開発庁 吉 村 芳 男
- 11.10~11.25 (7) 流れを遮る波のエネルギーの減衰について 東北大学工学部 岩崎敏夫・○佐藤道郎
- 11.25~11.40 (8) 二次波峯現象における非線型性の解析 名古屋工業大学 細井正延・○石田 昭
- 11.40~12.00 討 議 (5)~(8)
- 12.00~13.30 昼食・休憩
- 13.30~13.45 (9) 表面波の質量輸送について 運輸省港湾技術研究所 浜 田 徳 一
- 13.45~14.00 (10) 波動境界層における質量輸送と海底の洗掘 鳥取大学工学部 野 田 英 明
- 14.00~14.15 (11) 砕波付近の表面水粒子速度に関する実験
京都大学工学部 岩垣雄一・○酒井哲郎・京都府庁 関沼淳一・京都大学工学部 川島 毅
- 14.15~14.30 (12) 斜面上における孤立波の変形に関する研究(Ⅰ) 北海道大学工学部 尾崎 晃・佐伯 浩・○花安繁郎
- 14.30~14.50 討 議 (9)~(12)
- 14.50~15.00 休 憩
- 15.00~15.15 (13) 越波のある場合の重複波の特性について 京都大学防災研究所 土屋義人・○山口正隆
- 15.15~15.30 (14) 海岸構造物不連続部の波高分布について(第5報)(前面波高の簡単な算定法) 徳島大学工学部 ○三井 宏・筒井茂明
- 15.30~15.45 (15) 離岸堤による漁港の波浪遮蔽効果について 農林省農業土木試験場 高 橋 昭 七
- 15.45~16.00 (16) 水平板による防波堤と岸壁に関する理論的研究(Ⅱ)
九州大学工学部 ○井島武士・運輸省第四港湾建設局 尾崎重雄・九州大学工学部 江口泰彦・小林 彰
- 16.00~16.20 討 議 (13)~(16)
- 16.20~16.30 休 憩
- 16.30~17.10 第12回国際海岸工学会議報告

第1日: 11月26日(木) 第2会場(新潟県建設会館)

- 9.00~9.10 開会あいさつ 土木学会海岸工学委員会幹事長 堀 川 清 司
- 9.10~9.25 (17) 砕波後の波の打ち上げ高について 台湾成功大学 ○郭 金 棟・李 永 寿
- 9.25~9.40 (18) 波の遡上、越波および反射の関連性について(第2報)(堤脚水深の影響) 中部工業大学工学部 高 田 彰
- 9.40~9.55 (19) 不規則波に対する護岸の期待越波流量について(第2報) 運輸省港湾技術研究所 合 田 良 実
- 9.55~10.10 (20) 海岸堤防の越波量について 建設省土木研究所 ○富永正照・佐久間襄
- 10.10~10.30 討 議 (17)~(20)
- 10.30~10.40 休 憩
- 10.40~10.55 (21) シート型浮防波堤の消波効果について(Ⅱ) 農林省農業土木試験場 加藤重一・○乃万俊文・萩野静也
- 10.55~11.10 (22) 直立消波岸壁に関する二、三の実験的研究 京都大学工学部 長尾義一・日本テトラポット ○加藤久徳
- 11.10~11.25 (23) 透過性防波構造物の水理特性 室蘭工業大学 ○近藤俊郎・藤岡 聡
- 11.25~11.40 (24) 日本沿岸における潮位の計画水面について 日本大学理工学部 久宝雅史・○竹沢三雄
- 11.40~12.00 討 議 (21)~(24)
- 12.00~13.30 昼食・休憩
- 13.30~13.45 (25) 混成堤基礎マウンドを被覆するコンクリート方塊の安定重量 電力中央研究所 ○鹿島達一・齊藤昭三・長谷川寛



- 13.45~14.00 (26) 直立壁に作用する砕波の波力と波面との関係 東京大学工学部 堀川清司・○野口雄二
 14.00~14.15 (27) 昭和 45 年冬期異常気象による海象と構造物の被害について 運輸省第一港湾建設局 西田俊策・○田中則男
 14.15~14.30 (28) 日本海(佐渡沖)における燈標に作用した最大波高について 東海大学海洋学部 長 崎 作 治
 14.30~14.50 討 議 (25)~(28)
 14.50~15.00 休 憩
 15.00~15.15 (29) 透過工法による波圧減少に関する実験的研究 岐阜工業高等専門学校 ○青野 一・旭コンクリート工業 桜井輝男・東洋建設 塩谷 清
 15.15~15.30 (30) 施工段階における消波工の波圧減殺効果に関する実験的研究 北海道開発局 鴻上雄三・○時川和夫
 15.30~15.45 (31) サロマ湖の水理について 北海道大学工学部 福島久雄・○尾崎 晃・柏村正和・八畝 功・高橋 将
 15.45~16.00 (32) 河口流の実態 北海道大学工学部 ○柏村正和・吉田静男
 16.00~16.20 討 議 (29)~(32)

第 2 日: 11 月 27 日 (金) 第 1 会場 (新潟県民会館)

- 9.00~ 9.15 (33) 重複波による底質の浮遊濃度分布 中央大学理工学部 服 部 昌 太 郎
 9.15~ 9.30 (34) 波運動に伴う乱れと底質の浮遊 東京大学工学部 堀川清司・○渡辺 晃
 9.30~ 9.45 (35) 実験計画法による海浜変形の研究 岐阜大学工学部 増田重臣・名城大学理工学部 ○伊藤政博
 9.45~10.00 (36) 養浜工に関する基礎実験 東京大学工学部 堀川清司・○佐々木民雄
 10.00~10.20 討 議 (33)~(36)
 10.20~10.30 休 憩
 10.35~10.45 (37) 鹿島海岸沖浜帯の浮遊砂について (第 2 報) 東京教育大学理工学部 井 口 正 男
 10.45~11.00 (38) 高知港口付近の漂砂に関する実験的研究 高知大学農学部 上森千秋・○玉井佐一・亀松睦弘
 11.00~11.15 (39) 須磨海岸の漂砂に関する模型実験 運輸省港湾技術研究所 佐藤昭二・○入江 功
 11.15~11.30 (40) 波と流れによる砂の移動について (Ⅱ) 農林省農業土木試験場 ○中村 充・白石英彦・佐々木泰雄
 11.30~11.50 討 議 (37)~(40)
 11.50~13.00 昼食・休憩
 13.00~13.15 (41) 台湾東部海岸大武漁港の漂砂について 台湾成功大学 郭 金 棟・○蘇 棋 福
 13.15~13.30 (42) 北海道太平洋岸における海岸浸食の特徴 (内浦湾, 日高・胆振海岸の浸食成因調査から) 北海道開発局 ○鴻上雄三・井波宏之・星 藤男
 13.30~13.45 (43) 千葉県屏風ヶ浦の海岸侵蝕について (2) (航空写真による海蝕崖の後退に関する研究・第 3 報) 東京大学工学部 堀川清司・○砂村継夫
 13.45~14.00 (44) 富山海岸における漂砂源と卓越方向について (海岸踏査と底質分析とによる検討) 運輸省港湾技術研究所 佐藤昭二・入江 功・○堀江 毅
 14.00~14.15 (45) 富山湾における海岸線の移動 建設省土木研究所 ○岡本隆一・小島圭二・榎元則
 14.15~14.40 討 議 (41)~(45)
 14.40~15.00 休 憩
 15.00~15.15 (46) 防波堤周辺の洗掘および海岸の欠陥について 運輸省第一港湾建設局 和田善吉・岡田稔秋・○西村一男・榎井康裕
 15.15~15.30 (47) 離岸堤に関する研究 (第 1 報) 大阪市立大学工学部 ○永井莊七郎・久保 直
 15.30~15.45 (48) 離岸堤の統計的考察 建設省河川局 豊 島 修
 15.45~16.00 (49) 河口堆積土砂量の計算について 神奈川県企業庁 広 田 純 也
 16.00~16.15 (50) 河口閉塞にともなう河道内水位の解析的研究 大阪大学工学部 ○植木 亨・運輸省港湾技術研究所 小舟治治
 16.15~16.40 討 議 (46)~(50)
 16.40~16.50 閉会あいさつ 岩 崎 敏 夫

第 2 日: 11 月 27 日 (金) 第 2 会場 (新潟県建設会館)

- 9.00~ 9.15 (51) 淡塩二層流における乱れ拡散に関する研究 (1) 東北大学工学部 岩崎敏夫・東北工業大学工学部 ○阿部至雄
 9.15~ 9.30 (52) 流水中での重力拡散 中央大学理工学部 首 藤 伸 夫
 9.30~ 9.45 (53) 流れの場に海洋放出された廃水の浮上ブリュームの側方湾曲拡がり 中央大学理工学部 ○林 泰造・首藤伸夫
 9.45~10.00 (54) 河口密度流に関する二, 三の問題 電力中央研究所 中 村 宏
 10.00~10.20 討 議 (51)~(54)
 10.20~10.30 休 憩
 10.30~10.45 (55) 風浪の淡水湖塩分鉛直混入速度に与える影響 京都大学農学部 南 勲
 10.45~11.00 (56) 沿岸海域における工業用水取排水問題のシミュレーション 電力中央研究所 和 田 明
 11.00~11.15 (57) 汚染物質拡散の数値解法について (その 2) 運輸省第二港湾建設局 堀 口 孝 男
 11.15~11.30 (58) 瀬戸内海における海水の交流と物質の拡散 東海大学海洋学部 速水頌一郎・○宇野木早苗
 11.30~11.50 討 議 (55)~(58)
 11.50~13.00 昼食・休憩
 13.00~13.15 (59) 定置式波向計 (抵抗歪線型) について 運輸省港湾技術研究所 高橋智晴・○鈴木福実・佐々木弘・菅原一晃
 13.15~13.30 (60) 波浪観測データの集中処理方式について 運輸省港湾技術研究所 ○高橋智晴・鈴木福実・副島 毅・中井徹也
 13.30~13.45 (61) 電気油圧式不規則波発生機について 京都大学工学部 ○岩垣雄一・村上仁士・酒井哲郎・木村 晃
 13.45~14.00 (62) 造波機による不規則波の発生 建設省土木研究所 富永正照・○橋本 宏
 14.00~14.20 討 議 (59)~(62)
 14.20~14.30 休 憩
 14.30~14.45 (63) 津波防波堤の効果について (2) 東京大学工学部 堀川清司・中央大学理工学部 首藤伸夫・東京大学工学部 ○西村仁嗣
 14.45~15.00 (64) 津波の汀線における水理特性と陸上遡上 東北大学工学部 岩崎敏夫・○富樫宏由・佐藤栄司
 15.00~15.15 (65) 高知港の津波と振動特性に関する模型実験 京都大学防災研究所 中 村 重 久
 15.15~15.30 討 議 (63)~(65)

5. 懇 親 会:

(1) 期 日: 1970 年 11 月 26 日 (木) 18.00 から

- (2) 会 場：ホテル新潟
 (3) 会 費：1 000 円
 (4) 定 員：70 名
6. 見 学 会：
 (1) 期 日：1970 年 11 月 28 日 (土) 9.30～16.00
 (2) コ ー ス：9.30 新潟駅前集合・出発→西港→東港→ビーチセンター（昼食）海岸保全施設→関屋分水→新潟駅前解散 16.00
 (3) 参 加 費：600 円（バス代，昼食代）
 (4) 定 員：50 名
7. 申 込 方 法：懇親会，見学会に参加ご希望の方は，氏名，勤務先，連絡先住所を明記のうえ，参加費を添えて 11 月 14 日 (土) までに下記へお申込み下さい。定員がありますので早目にお申込み下さい。なお，参加者多数の場合の受付は着金の順になりますのでご了承下さい。また，講演会 (11 月 26 日～27 日) の参加は自由 (参加費無料) ですことを申添えます。
8. 懇親会・見学会申込先：郵便番号 160 東京都新宿区四谷一丁目 土木学会海岸工学講演会係

第 3 回日本地震工学シンポジウム (1970)

◀ 11 月 17 日 (火)～20 日 (金) ▶

主 催：地震学会・土質工学会・土木学会・日本建築学会

日本地震工学シンポジウムは，1962 年に第 1 回が開催され，1966 年の第 2 回について，本年秋その第 3 回が開催されることになりました。このシンポジウムは，世界地震工学会議の中間年ごとに開催され，わが国において広い分野にわたる研究集会としての大きい意義をもつと同時に，そのプロシーディングスは，国際的にもきわめて高水準にあるものとして高く評価されております。

今回の第 3 回日本地震工学シンポジウム (Third Japan Earthquake Engineering Symposium—1970) は，つぎのような要領によって開催し，海外研究者の有志にも参加できるよう門戸を開くとともに，国内の地震工学研究者，技術者の研鑽および研究情報交換の場にいたしたいと存じますので，会員各位には下記要領をご参照のうえ，ふらつてご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 程：1970 年 11 月 17 日 (火)，18 日 (水)，19 日 (木)，20 日 (金) の 4 日間
 11 月 17 日 (火) 研究発表会，パネル討論会，懇親会／11 月 18 日 (水) 見学会／
 11 月 19 日 (木) 研究発表会／11 月 20 日 (金) 研究発表会
2. 会 場：11 月 17 日 (火)，19 日 (木)，20 日 (金) 第一生命ホール (東京都千代田区有楽町 1 の 9・電 03-216-3810)
 11 月 18 日 (水)，20 日 (金) 東京商工会議所ホール (東京都千代田区丸の内 3 の 2 の 2
 ・電 03-211-4411)
3. 定 員：第一生命ホール 700 名 東京商工会議所ホール 600 名
4. 参 加 費：一般 3 000 円
 学生 2 000 円 (ただし，締切期日までに申込んだ者に限る)
5. 懇親会費：2 000 円
6. 見学会費：350 円
7. 申込要領：

- (1) 申込締切：1970 年 10 月 31 日
- (2) 官製はがき大の用紙に「第 3 回日本地震工学シンポジウム (1970) 参加申込」と必ず明記し，氏名，勤務先，連絡先，所属学会，参加項目 (シンポジウム，懇親会，見学会の別を明記) を記載し，所要の費用 (現金または銀行送金) を添えて幹事学会へお申込み下さい。学生の場合は，とくに，在学校，学科，学年を明記して下さい。

幹事学会：社団法人 土質工学会 (東京都港区西新橋 1 の 13 の 5 東亜別館内・電 03-502-6256)

銀行送金：振込銀行 住友銀行日比谷支店

口 座 普 通 預 金

口座名義 第 3 回日本地震工学シンポジウム (1970)

(3) プロシーディングスは 10 月末日頃印刷できる予定です。参加者には無料で配布いたします。10 月末日～11 月 16 日は幹事学会で、開催期間中は会場で、それ以後は幹事学会（前掲）で引換券と引換えにお受取り下さい。引換券は、お申込み入金のあるしだい参加票とともに送りいたします。

(4) 締切期日前でも定員になりしだい申込みを締切りますので、なるべく早目にお申込み願います。

8. プロシーディング：B5 判、オフセット印刷、発表論文を掲載。会場における質疑応答、討論内容は後日印刷のうえ、参加者に送付いたします。

9. 懇親会：

日 時：11 月 17 日（火）17.00～19.00
会 場：糖業会館 2 階ホール（東京都千代田有楽町 1 の 7・電 03-281-3351）
会 費：2000 円
定 員：120 名（ただし、申込み順により満員になりしだい締切ります）

10. 見学会：

日 時：11 月 18 日（水）
会 費：350 円
見 学 先：国立防災科学技術センター大型耐震実験装置（筑波）
（茨城県新治郡桜村栗原字鳥居先 4472 電 大総局 029864（179））

日 程：13.00 国鉄土浦駅前集合→13.30 防災センター着——見学——15.30 防災センター発→国鉄土浦駅前着
解散

11. 日 程：第一生命ホール 9.00～16.30
東京商工会議所ホール 9.00～16.00

	第 1 日（11 月 17 日）	第 2 日（11 月 19 日）	第 3 日（11 月 20 日）
第ホ ー 生 命 ル	○開会のことば ○地震時における地盤の挙動および地盤と構造物との相互作用に関する論文発表とパネル討論	○土の動的性状に関する論文発表 ○地震動に関する論文発表	○地下構造（基礎、くいなど）の動的性状に関する論文発表 ○耐震実験、実例に関する論文発表 ○閉会のことば
東議 京所 商ホ 工 会 ル		○構造物の地震応答に関する論文発表	○構造物の耐震性状に関する論文発表 ○耐震設計法に関する論文発表 ○震害に関する論文発表 ○閉会のことば

土木学会誌 “合本ファイル”

土木学会誌を整理していただくために合本ファイルを販売しております。1 ファイルで半年分（6 冊）とじることができます。ご希望の会員は代金に送料を添えお申込み下さい。下記のとおりなるべく一括した方が送料が安くなります。

記

体 裁 B5 判・薄グリーン・クロス装、
ピン挿入式（株・テッサーの製造による）

定 価 150 円

送 料 1 部 100 円 17 部まで 200 円
8 部まで 160 円 26 部まで 240 円

申 込 先 土木学会（東京都新宿区四谷 1 丁目
・振替東京 16828）



“新材料・新工法を用いた構造物における諸問題”に関する研究発表会

(第 17 回橋梁・構造工学研究発表会)

例年行なわれております橋梁・構造工学研究発表会を、本年度は下記により開催致しますのでふるってご参加下さい。

1. 期 日：1970 年 12 月 4 日(金)
2. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷 1 丁目）
4. 原稿提出期限：10 月 15 日(木)

第 3 回岩の力学国内シンポジウム(1970)開催ならびに参加募集

◀ 11 月 26 日(木)～27 日(金) ▶

下記により、第 3 回岩の力学国内シンポジウムを開催いたします。関係各位はふるってご参加くださるようご案内いたします。

1. 共 催：土質工学会・土木学会・日本鉱業会・日本材料学会
2. 期 日：1970 年 11 月 26 日(木)、27 日(金)
3. 会 場：京都会館会議場（京都市左京区岡崎公園内）市電、市バス 東山二条「岡崎公園前」下車 東 300 m
4. 定 員：350 名
5. 参 加 費：1 名 2 500 円 学生 2 000 円（いずれも講演集代を含む）
6. プログラム：

第 1 日(11 月 26 日(木)) 注：* 印は課題論文 ○印は発表者

9.00～9.15	開会あいさつ	第 3 回岩の力学国内シンポジウム運営委員会委員長 平 松 良 雄
	<司会者 松 島 昭 吾(京大理)>	
9.15～9.30	(1) 岩石供試体の縦波伝播速度と一軸圧縮強度との関係	熊本大工 ○井上正康・大見美智人
9.30～9.45	(2) 岩石の風化度に関する一試案	東大工 山 口 梅 太 郎
9.45～10.10	(3)* 粒状材料(ロックフィル材料)の力学的特性を支配する要因効果について	関西電力(株) 大 長 昭 雄
10.10～10.25	(4) 岩石の疲労寿命におよぼす平均応力および応力振幅の影響	東大工 西松裕一・R. ヘルセオヨ
10.25～10.40	(5) 岩石の力学的性質におよぼす繰り返し荷重の影響	東大工 R. ヘルセオヨ・西松裕一
	<司会者 小 林 昭 一(京大工)>	
10.40～10.55	(6) 岩石の疲労試験	東北大工 堀部富男・小林良二 池見保純
10.55～11.10	(7) 緑色片岩帯における硬軟両岩の比較試験からの一考察	大成建設(株) 木 沢 恒 雄
11.10～11.35	(8)* 岩石の変形および破壊	名大理 飯田汲事・東大震研 茂木清夫
11.35～12.00	討 論	
12.00～13.00	昼 食 休 憩	
	<司会者 川 本 脩 万(名大工)>	
13.00～13.25	特別講演 第 2 回国際岩の力学会議(ベオグラート会議)の報告	京大工 伊 藤 一 郎
13.25～13.40	(9) 岩盤の節理および強度解析の一手法	埼玉大理工 小野寺透・○吉中竜之進
13.40～13.55	(10) 岩石中における微小割れ目発生の条件	工技院地質調査所 小 出 仁
13.55～14.10	(11) 岩石強度試験における円筒供試体の形状寸法について	建設機械化研 三谷 健・安達啓治・河井武夫
	<司会者 井 上 正 康(熊本大工)>	
14.10～14.25	(12) 多軸応力下における等方性および異方性岩石の破壊曲面について	京大工 赤 井 浩 一
14.25～14.40	(13) 引張強さを持つ乱さないシラス供試体のぜい性破壊について	鹿児島工専 ○村田秀一・九大工 山内豊聡
14.40～14.55	(14) 原位置岩盤直接せん断試験結果に関する考察(岩盤区分とせん断特性との関連について)	(株)応用地質調査事務所 武内俊昭、梶間和彦
14.55～15.10	(15) 岩石材料の粘塑性と直接せん断試験	京大工 足立紀尚・Serata Geomechanics・世良田章正
15.10～15.35	討 論	
15.35～17.35	パネル討論	
テ ー マ	岩石および岩盤の調査と試験	
チェアマン	鈴 木 光(東大工)	
1 レポーター	岩盤の現地せん断試験値とボーリングコアの試験値の相関の調査結果	土木学会岩盤力学委員会 林 正 夫
2 レポーター	現場および室内試験と岩の分類	土質工学会岩の力学委員会 池 田 和 彦
3 レポーター	岩石強度試験法	日本鉱業会岩石強度測定法特別委員会 堀 部 富 男
4 レポーター	岩石の変形、破壊特性	日本材料学会岩石力学部門委員会 小 林 昭 一
パネリスト	北原義浩、飯田隆一(土木学会)、赤井浩一、小野寺透(土質工学会)	
	山口梅太郎、岡 行 俊(日本鉱業会)、松島正吾、桜井春輔(日本材料学会)	

岩の力学に関する懇親会 17.40～18.30 (岩の力学研究連合委員会)

国際会議出席者の土産話を聞くほか、国際岩の力学会 (ISRM) の活動状況およびわが国の役割などについて懇談

第2日 (11月27日 (金))

- <司会者 西村 裕一 (東大工)>
- 9.00～9.15 (16) 岩層内に形成される地すべり面の発生機構について 西日本工大 玉田 文吾
 9.15～9.30 (17) 直交異方性粘弾性地山の円形トンネルの変形挙動について 神戸大工 桜井 春輔
 9.30～9.55 (18)* 岩盤せん断試験に対する力学的考察 建設省土木研究所 飯田 隆一
 9.55～10.10 (19) ポアホールを利用する岩盤応力測定に関する理論的考察 東大工 ○鈴木 光・石島洋二
 10.10～10.35 (20)* トンネル上部の地層の沈下の地球物理的解釈 鉄道技研 田中敏夫・飯塚 全
- <司会者 飯田 隆一 (建設省土木研究所)>
- 10.35～10.50 (21) 異方性弾性岩盤内の双設円形坑道周辺の応力状態 京大工 ○丹羽義次・平島健一
 10.50～11.05 (22) 地下発電所の掘削に関する弾望・粘性解析、実測などの問題点 電力中研 ○林 正夫・日比野敏
 11.05～11.30 (23)* 鉱柱およびその付近の応力について 京大工 平松良雄・岡 行俊・水田義明・榎横由彦
 11.30～11.55 討 論
 11.55～12.40 昼 休 憩
- <司会者 磯部 俊郎 (北大工)>
- 12.40～12.55 (24) 地すべり地のトンネル掘削とその対策 鹿島建設 (株) 佐藤忠五郎・○渋谷長美・雑喉 謙・田村 計・岡林信行・谷本治重
 12.55～13.10 (25) 単発爆破試験 (クレータテスト) の二、三とその考察 建設機械化研 三谷 健・安達征治・河井武夫
 13.10～13.35 (26)* 風化岩盤における関門架橋の基礎工法 道路公団 乙藤憲一・大橋昭輝
 13.35～14.00 (27)* 爆破による岩石の破壊機構—主としてガス圧による破壊について— 京大工 伊藤一郎・佐々宏一・花崎絢一・西松建設 (株) 谷本親伯
- 14.00～14.15 討 論
- <司会者 大長 昭雄 (関西電力 (株))>
- 14.15～14.30 (28) 大野ダムにおける長期地盤変動の電氣的測定 京大工 吉住永三郎・○菅野 強・京都府企業局 鈴木詔次郎・鹿島建設 (株) 佐藤忠五郎
 14.30～14.45 (29) 喜瀬山発電所放水路にけるグラウト効果の電氣的測定 京大工 吉住永三郎・田中壮一・関西電力 (株) 松居正次・新日本技術コンサルタンツ (株) 溝口旦元・○国井仁彦
 14.45～15.10 (30)* 黒部ダム基礎岩盤の挙動について 関西電力 (株) 横 田 潤
 15.10～15.25 (31) 原子力発電所建設地点基礎岩盤の力学的考察 鹿島建設 (株) 佐藤忠五郎・渋谷長美・○雑喉 謙・岡林信行・野口昌紘
- <司会者 赤井 浩一 (京大工)>
- 15.25～15.40 (32) 新幹線六甲トンネル袖谷破砕帯の予知 鹿島建設 (株) ○佐藤忠五郎・雑喉 謙・松井正州・西藤立雄・谷本治重・田中完治
 15.40～16.05 (33)* 山はねの機構と防止対策 北大工 磯部 俊郎
 16.05～16.30 (34)* 西南日本のネオテクトニクスからみた岩盤の力学性について 阪市大理 藤田和夫・京女大 伊藤英文
 16.30～16.50 討 論
 16.50～17.00 閉会あいさつ 土質工学会岩の力学委員会委員長 小野 寺 透

6. 参加申込要領:

1. 申込締切期日 11月10日 (火)
2. B5判の適宜用紙に「第3回岩の力学国内シンポジウム参加申込」と記し、参加者氏名、所属、連絡先、所属学会を記載し、参加費 (現金または振替) を添えて、下記へお申込み下さい。定員になり次第申込を締切りますので、早目をお願いいたします。
日本材料学会シンポジウム係: 〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101 Tel. 京都 761-5321 振替口座京都 26625 番
3. 着金のあり次第参加券、講演集引換券をお送りいたします。なお、参加取り消しの場合でも参加料の払いもどしはいたしません。

7. 懇親会: 会期中下記により、懇親会を開催いたしますから、参加ご希望の方は会費を添えて、シンポジウム参加申込みと同時に申込みください。申込み順に受け付け定員になり次第締切ります。

1. 日 時: 11月26日 (木) 18.45～20.00
2. 会 場: 京都会館公会堂 (シンポジウム会場、北側の建物)
3. 会 場: 1500 円
4. 定 員: 50 名

第17回風に関するシンポジウム講演募集

標記シンポジウムを下記により開催致しますので、講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日: 1970年12月10日 (木) 9.30
2. 会 場: 気象庁講堂 (東京都千代田区大手町 1-7) 電話 212-8341 (代表)

地下鉄：竹橋（東西線）、大手町（丸の内線）下車

3. 共催学会：地震学会・土木学会・日本海洋学会・日本気象学会・日本建築学会（幹事学会）・日本航空宇宙学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会
4. 講演申込締切期日：1970 年 10 月 12 日（月）
5. 講演申込方法：10 月 12 日までに題目、講演者氏名（連名の場合は登壇者に○印をつける）、勤務先、連絡先、スライド、図面等の有無を明記し、幹事学会（日本建築学会）または所属学会宛お申込み下さい。
6. 講演時間：1 講演 15 分～20 分程度の予定です。
7. その他：シンポジウムの前刷集は作成致しませんのでご了承下さい。なお、講演者が各自プリントのうえ、会場にて参加者へ配布されることは差しつかえありません。

第 7 回 衛生工学研究討論会論文募集

土木学会衛生工学委員会は、下記により研究討論会を実施しますので、論文提出希望者はふるってご応募下さいませようご案内いたします。

記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1971 年 1 月 30 日（土）、31 日（日）の 2 日間
3. 場 所：九州大学工学部（福岡市）
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：10 月末日までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会まで提出下さい。なお、原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙（申込次第送付）を使用して下さい。原稿枚数は 10 枚以内とし、期日以後は受付けをお断りしますのでご注意下さい。
6. 申込先：土木学会衛生工学委員会（東京都新宿区四谷 1 丁目）
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。
8. 懇 親 会：第 1 日目（30 日）終了後懇親会を予定しております。

第 15 回 水理講演会講演募集

◀ 2 月 12 日（金）～13 日（土）▶

第 15 回水理講演会を下記により開催致しますので、講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1971 年 2 月 12 日（金）～13 日（土）
2. 会 場：発明会館（東京都港区芝西久保明舟町 17 番地・地下鉄虎ノ門下車徒歩 3 分）
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 課 題：A. 移動河床の水理／B. 混相流の水理／C. 水理現象の確率・統計的シミュレーション
5. 申込方法、その他：

10 月 30 日までに講演題目、講演者氏名（連名の場合は登壇者に○印をつける）、勤務先、連絡先住所を明記のうえ、土木学会水理委員会あてお申込み下さい。折り返し当学会所定の原稿用紙をお送り致します。
6. 講演原稿締切期日：1970 年 12 月 5 日（土）（厳守）

アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム

土木学会コンクリート委員会ではアルミナセメントの使用方法に関する各種試験研究を行なっておりますが、これらの成果を中心に下記によりシンポジウムを開催する予定ですのであらかじめお知らせいたします。

1. 期 日：1971 年 4、5 月頃
2. 場 所：東 京

なお、詳細については決定次第本欄でお知らせいたします。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南1条西2丁目・勸銀ビル5階)
電 0122-25-7038

(1) 第4回見学会(札幌地区)

◀ 10月9日(金) ▶

1. 期 日: 1970年10月9日(金) 日帰り, 保安帽携帯のこと
2. 参加費: 会員 700円, 学生会員 500円, 会員外 1000円, 学生 700円 申込みと同時に前納のこと
3. 定 員: 50名(申込着順に締切る)
4. 申込先: 支部事務局
5. 見学スケジュール: 大通テレビ塔北側集合 8:30~同出発 9:00 新川下水処理場~札幌新道高架橋工事~石狩川河口橋工事~月寒川築堤泥炭地工事~札幌駅地下鉄工事~解散 17:00

(2) 最近の海外技術——講演会——

◀ 10月28日(水) ▶

1. 期 日: 1970年10月28日(水) 13:10 開会
2. 会場予定: 札幌市婦人会館3階ホール
3. 演題と講師:

① 13.10~14.30 西部アメリカヒルダムについて	北電新冠発電所建設所 酒 井 賢 一
② 14.30~15.50 国際水理学会と北欧の水力開発	北海道大学工学部 教授 工博 山 岡 勲

(3) 研究発表会論文・報文原稿募集

標記の原稿をつぎの要領で募集しています。ふるってご応募下さい。

1. 発 表: 1971年3月4日(木) 札幌市民会館において口頭発表するほか, 事前に“論文集第27号”として本印刷発行し, 会員ならびに全国主要研究機関に配付する。
2. 内 容: 土木工学・土木技術・工事報告文など
3. 応募方法: はがきまたは電話で支部事務局へお申込み下さい。
ただちに原稿用紙・起稿要領をお届けします。
4. 応募資格: 北海道支部所属の会員を原則とし, 会員外の方は入会を条件として認められます。
5. 申込締切: 1970年10月25日
6. 原稿締切: 1970年11月20日必着
7. 支部奨励賞: すぐれた論文には, 支部奨励賞として賞状, メダル, 賞金1万円を贈呈し表彰されます。

東北支部行事案内(郵便番号 980 仙台市二日町 18-25・丸七ビル 電話 0222-22-8509)

(1) 見 学 会

◀ 10月6日(火) ▶

1. 期 日: 1970年10月6日(火)
2. 場 所: 北上大ぜき, 奥松島, 仙台新港
3. 集合場所: 宮城県庁前広場
4. 集合時刻: 8.00~
5. 行 程: 8.00~17.30 仙台解散の予定
6. 定 員: 40名
7. 会 費: 300円
8. 申込方法: 9月30日までに東北支部へ会費をそえてお申込み下さい。なお期限前でも定員になり次第締切ります。

(2) 講演会および映画会

◀ 10月中旬 ▶

1. 期 日: 1970年10月中旬
2. 会 場: 日立ファミリーセンター(仙台市青葉通り)
3. 講演題目および講師: シュンヘン市地下鉄建設状況ならびに仙台市地下鉄建設計画についての考察

東北大学教授 多 谷 虎 男

4. 映 画：北上川（1 時間）／よみがえる川（28 分）／東名高速道路実施篇（25 分）／その他
5. 定 員：200 名
6. 会 費：無料

（３）技術研究発表会論文・報文募集

表標の原稿をつぎの要領で募集します。

1. 発 表：1971 年 2 月 23 日（火）仙台市宮城県民会館で口頭発表のほか“技術研究発表会講演概要”として印刷刊行配布する
2. 内 容：土木工学・土木技術・工事報告など。
3. 応募方法：支部事務局へ文書または口頭で申込みのこと。申込みにより所定の原稿用紙と起稿要領などを急送する。
4. 応募資格：東北支部所属の会員を原則とする。
5. 申込締切：1971 年 12 月 15 日（期限後到着のものは受理いたしませんのでご注意ください）
6. 原稿締切：1971 年 1 月 20 日必着のこと。

（４）技術講座

◀ 11 月 12 日（木） ▶

1. 日 時：1970 年 11 月 12 日（木）9.00～17.00
2. 会 場：建設会館 仙台市上杉 1 の 4 の 20 6 階 2 号室
3. 講演題目および講師：

① 最近の構造物基礎工法について	建設省土木研究所研究室長 浅 間 達 雄
② フィルタイプダムについて	建設省御所ダム工事事務所長 長 沢 敏 夫
4. 映 画：2 題（題未定）

関東支部行事案内（郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目
土木学会総務課内 電話 03-351-4133）

（１）新潟市周辺主要工事見学会

◀ 10 月 15 日（木）～16 日（金） ▶

今回の見学会は支部発足以来はじめての試みとして、新潟市周辺の海岸・河川・発電所を、おもな対象とし企画いたしました。多数の方々のご参加をおすすめいたします。

〔見学内容〕

- ・新潟海岸：日和山、寄居浜附近における海岸侵食対策工事
- ・関屋分水：新潟市の洪水防衛と新潟西港の土砂埋没を防止し、同海岸を維持するとともに、河川維持用水の確保を図る信濃川治水の画期的な工事
- ・加 治 川：昭和 41、42 年の両年にわたり連続災害を受け、目下行政訴訟中の災害復旧助成事業
- ・新潟東港：日本海沿岸・振興対策の基盤をなす工業港（掘込港）の新設と大臨海工業地帯の造成工事
- ・新潟火力発電所：新技術を投入し、出力 75 万 kW の発電所で日本海沿岸におけるわが国最大の新鋭火力発電所

1. 期 日：1970 年 10 月 15 日（木）、16 日（金）
2. 集 合：10 月 15 日 14.30 新潟駅前集合
3. 行 程：15 日—新潟海岸（14.50～15.30）、関屋分水（15.45～16.15）、新潟市・新潟会館泊、懇親会（18.00～20.00）
16 日—新潟会館（8.30 出発）、加治川（9.50～10.20）、新潟東港（11.10～11.40）、新潟火力発電所（12.10～13.30）、中食後新潟駅前解散（14.00）
4. 定 員：50 名（満員になり次第締切りますから、早目にお申込み下さい）。
5. 参 加 費：4 000 円（宿泊費、貸切バス代および中食代を含む）
6. 申 込 み：勤務先、氏名、年令、連絡先を明記して、参加費を添えて、土木学会関東支部あてにお申込み下さい。参加券をお送りいたします。

参 考：往き・上野発 9.04（急行佐渡 2 号）新潟着 13.39
 " 10.00（特急とき 2 号） " 14.00
 帰り・新潟発 15.00（特急とき 4 号）上野着 19.05

(2) 土木構造物の新しい設計法講習会

◀ 12月2日(水)～3日(木) ▶

——主として動的耐震設計と有限要素法の活用について——

最近の計算技術のめざましい進歩により、土木構造物の設計法にも急速に新しい手法がとり入れられつつあります。

今回この中から“動的耐震設計”と“有限要素法”をとりあげ、その理論と活用の現況について平易に解説していただくことにしました。これらの新技術に関心をもたれる方々には、それらを理解される好機であると思います。多数のご参加をおすすめいたします。

1. 期 日：1970年12月2日(水)～3日(木)の2日間
2. 会 場：紀伊国屋ホール(紀伊国屋ビル4階、新宿区角筈 1-826/国電新宿駅東口下車、地下鉄丸ノ内線新宿三丁目下車
／地下プロムナードより入口あり)
3. 参 加 費：3,000円(テキスト代含む)
4. テキスト：土木構造物の新しい設計法
5. 題目、講師および日程：

第1日：12月2日(水) ——動的耐震設計について——

9.30～9.40	開 会 検 拶	土木学会関東支部長	水 越 達 雄
9.40～11.00	(1) 一 般	埼玉大学	岡 本 舜 三
11.00～12.30	(2) 橋 梁	国 鉄	田 村 浩 一
12.30～13.30	昼 食 休 憩		
13.30～15.00	(3) タ ム	東京大学	田 村 重 四 郎
15.00～16.30	(4) 土 構 造	東京大学	石 原 研 而

第2日：12月3日(木) ——有限要素法の活用について——

9.30～11.00	(5) 一 般	名古屋大学	川 本 脩 万
11.00～12.00	(6) 基礎地盤	電力中央研究所	林 正 夫
12.00～13.00	昼 食 休 憩		
13.00～14.00	(7) 橋 梁	建設省土木研究所	栗 林 栄 一
14.00～15.00	(8) タ ム	建設省土木研究所	飯 田 隆 一
15.00～16.00	(9) 土 木 構 造	建設省土木研究所	伊 勢 田 哲 也
	閉 会 検 拶	土木学会関東支部幹事長	佐 藤 友 光

6. 申込み方法：参加希望者は①氏名、②所属部課名、③連絡先、郵便番号、住所、を明記のうえ会費を同封し、現金書留で土木学会関東支部宛(〒160 東京都新宿区四谷1丁目)お申込み下さい。

中部支部行事案内 (郵便番号 460 名古屋市中区三ノ丸・名古屋市役所土木局道路部建設課内) 052-961-1111, 内線 2464

(1) 昭和 45 年度第 2 回講演会

◀ 10月16日(金) ▶

1. 期 日：1970年10月16日(金) 13.30～
2. 場 所：静岡県追手町(静岡県庁東館2階会議室)
3. プログラム：

① 13.30～13.40	開会あいさつ	土木学会中部支部長(名古屋計画局長)	谷 重 幸
② 13.40～14.30	静岡県の土木事業について	静岡県土木部長	山 田 利 広
③ 14.30～15.30	建設業界の海外進出について		谷 藤 正 三
④ 15.40～17.00	映画：イ みち(20分)／ロ 美しく楽しくゆかいに(30分)		
4. 定 員：200名
5. 会 費：無料

(2) 昭和 45 年度講習会

◀ 11月20日(金) ▶

1. 期 日：1970年11月20日(金) 10.00～17.00
2. 場 所：名古屋市中区愛知県土木会館
3. 題 目：アスファルト舗装の共通仕様書の取扱いについて
4. 講 師：建設省 国道二課長 川 上 賢 司

建設省 土木研究所 松野三郎
建設省 地方道課課長補佐 田中淳七郎

5. 会 費：テキスト代（仕様書）200 円
6. 定 員：400 名

（3）昭和 45 年度研究発表会発表参加者要領

- 開催予定日：1971 年 2 月中旬
- 場 所：名古屋大学 土木工学教室
- 参加者要領：
 - 研究発表の題目は 1970 年 10 月末日必着にて、名古屋大学土木工学教室川本勝万助教授まで郵送のこと。
 - 論文については 1970 年 12 月末日までに上述のところへ必着のこと。
 - 土木学会誌 1 月号に発表者および題目を掲載する関係上絶対に期限は厳守して下さい。
なお、題目の変更もいっさい認めません。
 - 原稿 2～4 枚以内とし、原稿用紙は題目のお知らせを受け次第中部支部より郵送致します。

関西支部行事案内（郵便番号 541 大阪市東区船場中央 2—2・船場センタービル 4 号館 409 号）
電話（06）271-6686・振替口座大阪 82599 番

強化プラスチックの新しい成形法と検査法講習会

◀ 11 月 17 日（火）～18 日（水）▶

共催：日本材料科学会・強化プラスチック技術協会・ほか 1 学会

協賛：土木学会関西支部ほか、8 学協会

- 期 日：1970 年 11 月 17 日（火）～18 日（水）の両日
- 会 場：大阪府立工業奨励館研修会館 電話大阪（06）443-1121
大阪市西区江ノ子島上ノ町（地下鉄千日前線、中央線、阿波座下車）
- 題目と講師：

（第 1 日）11 月 17 日

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 9.00～10.00 | (1) 強化プラスチック成形法の現状 |
| 10.00～11.00 | (2) マッチドメタルダイ成形法 |
| 11.00～12.00 | (3) シートモールディングコンパウンド成形法 |
| 13.00～14.00 | (4) コールドプレスおよび連続成形法 |
| 14.00～15.00 | (5) バルクモールディングコンパウンド成形法 |
| 15.00～16.00 | (6) フィラメントワインディング成形法 |
| 16.00～17.00 | パネル討論 |

日東紡績（株）	田部井	清
日本硝子繊維（株）	谷垣	昭
武田薬品（株）	高木	収一
大日本硝子（株）	瀬川	浄一郎
大日本インキ（株）	西岡	義久
日本触媒（株）	仁木	正夫

（第 2 日）11 月 18 日

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 9.00～10.00 | (7) 強化プラスチック成形工程、製品管理のための検査 |
| 10.00～11.00 | (8) 強化プラスチック試験法 |
| 11.00～12.00 | パネル討論 |
| 13.00～17.00 | FRP 成形の実習および製品展示 |

日本硝子繊維（株）	吉田	真也
大工試	黒田	寿紀

- 参 加 料：共催、協賛学会会員 6 000 円 非会員 8 000 円 学生会員 4 000 円
いずれもテキストを含みます。
- 申込期限：1970 年 11 月 10 日（火）
- 申込方法：随意用紙に参加者の氏名、所属、連絡先、所属学会名を記入し、参加料を添えてつぎにお申みください。
- 申込先：日本材料学会講習会係 電話京都（075）761-5321
京都市左京区吉田泉殿町 1 の 101 振替口座京都 26625 番

（注）○受講者には聴講証をお送りしますから会期中は必ずご持参ください。

○講師その他やむを得ない事情が起きた場合、プログラムに一部変更があるかも知れませんがあらかじめご了承ください。

○参加会費の払いもどしはいたしません。

第 20 回 応用力学連合講演会

◀ 10 月 23 日 (金) ~ 24 日 (土) ▶

例年のとおり、標記の講演会が関係 9 団体の共催によって、下記要領で開催されます。プログラムをご希望の方は、土木学会総務課あてはがきでお申込み下さい。

1. 場 所：機械振興会館（東京都港区芝公園 21 号地 1 番 5 号）
2. 講 演：a) シンポジウム 18 題
b) 一般講演 74 題
3. 講演論文抄録集：1 700 円（予約に限り送料学会負担）
4. 参加登録料：300 円（講演会の経費の一部にあてるため、講演会参加者から登録料を申し受けることにいたしました）
5. 申込締切：10 月 5 日（月）必着（抄録集代、登録料と明記のうえ、代金を添えて土木学会総務課あてお申込み下さい）

第 13 回 国際水理学会会議のプロシーディングス頒布のお知らせ

昨年（'69）8 月 31 日～9 月 5 日、京都市で開催された標題のプロシーディングスの残部が少しありますので、購入希望者は至急土木学会図書頒布係へお申し出下さい。

Proceedings	Vol. 1 (Subject A)	A 5 判	580 頁
"	Vol. 2 (" B)	"	368
"	Vol. 3 (" C)	"	406
"	Vol. 4 (" D)	"	520
"	Vol. 5-1 (Seminars)	"	302
"	Vol. 5-2 (General Reports ほか)	"	688
"	Vol. 5-3 (General Lectures ほか)	"	251
計	7 冊		3115 頁
頒 価			10 000 円
送 料			300 円

トンネル標準示方書解説

内 容

第 1 編 総 則

第 2 編 調 査

第 1 章 通則／第 2 章 概略調査／第 3 章 精密調査

第 3 編 設 計

第 1 章 通則／第 2 章 トンネルの線形、勾配および内空断面の設計／第 3 章 荷重／第 4 章 巻厚線および支払線／第 5 章 支保工の設計／第 1 節 通則／第 2 節 鋼アーチ支保工／第 3 節 ロックボルト／第 4 節 吹付けコンクリート／第 6 章 覆工の設計／第 7 章 裏込め注入／第 8 章 その他の設計

第 4 編 施 工

第 1 章 通則／第 2 章 保安／第 3 章 測量／第 4 章 掘さく／第 5 章 爆破／第 6 章 ずり処理／第 7 章 坑内運搬／第 8 章 支保工／第 1 節 鋼アーチ支保工／第 2 節 ロックボルト／第 3 節 吹付けコンクリート／第 4 節 木製支柱式支保工／第 9 章 型わく／第 10 章 覆工／第 11 章 裏込め注入

体 裁：A 5 判 160 ページ 定 価：800 円 会員特価：700 円 送 料：70 円

水工学に関する夏期研修会講義集・在庫一覧

1964 B. 河川・港湾コース

A コース B5・178・1300 円(〒100)
絶版 5. 波動論(岸), 6. 波浪予知論(井島), 7. 高潮理論(室田), 8. 海岸堤防論(岩垣).

1965 A. ダム・河川コース

B5・230・2000 円(〒100)

1. ダムの Spillway の設計(岩崎),
2. ダムの Outlet Works の設計(山岡),
3. ダムにおける Sedimentation(芦田・土屋),
4. 河川流出の例題解説(石原),
5. 開水路流れの例題解説(岩佐),
6. 護岸・水制・床固めの水理機能(吉川),
7. 弯曲水路の流れ(岸),
8. 北海道の河川事業の特色(町田),
9. 護岸・水制・床固めの工法と設計例(古賀),
10. 水門・樋門の計画と設計(西畑),
11. 密度流論(嶋).

1965 B. 海岸・港湾コース

B5・180・1500 円(〒100)

12. 波浪の推定に関する最近の研究(井島),
13. 波浪スペクトル論とその応用(浜田),
14. 漂砂論(堀川),
15. 漂砂測定法(福島),
16. 波圧論(光易),
17. 消波構造論(尾崎),
18. 北海道における海岸および港湾の諸問題(穴釜),
19. 海岸保全計画論(久保島),
20. 河口密度流論(柏村),
21. 津波理論(室田).

<1966・絶版>

1967 A. 河川コース

B5・176・1000 円(〒100)

1. 水理学における数学的手法,
2. 流れの抵抗則(足立),
3. 流出機構(高棹),
4. 内水の流出解析,
5. 水資源論序説(高橋),
6. 土砂災害とその対策(矢野).

1967 B. 海岸・港湾コース

B5・148・900 円(〒100)

7. 港湾計画(長尾),
8. 港湾機能とその変貌(久田),
9. 波の変形論(岩垣),
10. 構造物に働く波力(合田),
11. 短周期波のうちあげに関する最近の研究(細井),
12. 漂砂(榎木),
13. 外国における高潮問題(本間).

1968 A. 海岸・港湾コース

B5・206・1300 円(〒100)

1. 土木技術者の教育について(松尾),
2. 波浪の数値予測(井島),
3. 海岸計測論(光易),
4. 沿岸潮汐の予知について(宮崎),
5. 海岸保全(豊島),
6. 特殊防波堤論(伊藤),
7. 沿岸環境問題(和田),
8. 河口安定論(吉高).

1968 B. 河川コース

B5・192・1200 円(〒100)

9. 日本の雨の特性(坂上),
10. 航空写真による洪水時の流況測定(木下),
11. 河川汚濁論(栗谷),
12. 貯水池群の統合操作(石原),
13. 境界層(岡部),
14. 電子計算機の応用例(木下),
15. 乱流拡散(栗原).

<1969・開催せず>

1970 A. 海岸・港湾コース

B5・268・2200 円(〒100)

1. 波浪の数値計算(合田),
2. 波浪の統計的解析への応用(日野),
3. 湾内拡散(首藤),
4. 津波(岩崎),
5. 漂砂特論(堀川),
6. 海洋開発(本間),
7. 波浪観測(村木),
8. 越波と根固め(富永),
9. 冷却水・取排水に関する技術的問題(千秋).

1970 B. ダム・河川コース

B5・210・1800 円(〒100)

10. 異常降雨について(大西),
11. 水文学における確率過程,
12. 水理構造物に作用する流体力(岩佐),
23. キャピテーション・その1(村井),
14. キャピテーション・その2(大場),
15. 掃流砂礫の流送機構(土屋),
16. 蛇行論(林),
17. 空気混入流(坂本),
18. Estuary の水理(吉川),
19. 河川構造物の水理機能(土屋).

<各残部僅少>

●申込先・土木学会刊行物頒布係・〒160 東京都新宿区四谷1丁目・電話 03-351-5130・振替東京16828●

1 土木計画学シンポジウム 700円 (〒 70)

■総論 土木計画と土木技術(八十島) / 土木計画と公共投資(加納) / 土木計画と土木技術へのコメント(米谷) ■土木計画手法に関連して 土木計画とOR(吉川) / 計画基礎数理(佐佐木) / 土木計画手法への反省(五十嵐) / 施工管理計画(佐用) / 土木計画手法に関連して(渡辺) ■総合計画に関連して 国土・地域計画(川北) / 土木計画と都市計画(秀島) / 地域に関連する計画における土木計画(井上) ■総合開発と社会開発に関連して 土木計画のあり方と基礎理念—水資源計画部門(西川) / 防災計画(石原) / 環境衛生計画—公害を中心として(山本) / 観光計画論から土木計画論へ(鈴木) / 産業開発と社会開発に関連して(高橋) ■交通計画に関連して 地域計画と交通(内田) / 起終点施設計画と土木計画(長尾) / 大都市問題と交通計画(毛利) / 都市鉄道計画と基礎理念(多谷) / 交通施設投資の計画体系について(天野) / 交通計画に関連して(小川)

2 土木計画学シンポジウム 700円 (〒 70)

■第1回シンポジウムにおける土木計画のあり方と基礎理念に関するまとめ(米谷) ■第I部 水資源計画 水需要量の予測と計画決定の合目的性(佐々木) / 河川の総合的開発利用計画(北野) ■第II部 交通計画 コンゴ—共和国の鉱山品輸出増強計画(立花) / 道路計画(星野) / 港湾における計画目標の設定と評価の基準(長尾) / 都市交通計画(新谷) / 地域と交通(加藤) ■第III部 都市計画・地域計画 理論都市・地域計画への試み(毛利) / 地域計画に関する一考察(大塚) / 都市計画・地域計画(渡部)

3 土木計画学シンポジウム 700円 (〒 70)

■第2回土木計画学シンポジウムにおける総括討論のまとめ(米谷) ■土木計画の考え方—第1回, 第2回の整理と検討(幹事会) / 道路工学・交通工学の周辺における二, 三の事例(枝村) / 景観計画における計量化(鈴木・村田) / 道路計画における計量化(山根) / 鉄道貨物輸送における設備計画と計量化(菊地) / 全国幹線交通モデルの開発に当って—計量化の方法と問題点—(伊藤) / 港湾計画における計量的手法例と問題点(小池) / 構造物の設計における安全率の選択(島田) / 上下水道計画における計量化とその問題点(末石)

4 土木計画学シンポジウム 700円 (〒 70)

■第1編 第3回シンポジウムにおける総括討論のまとめ(小川) ■第2編 第4回シンポジウムの前刷(再録)および挨拶/土木計画学へのシステムアプローチ(委員会) 1. 序論/今回のシンポジウムの役割 / 2. 土木計画学の位置付け / 3. 計画システムとは何か / 4. 従来のシステムアプローチ / 5. 本シンポジウムにおけるシステムアプローチ (1)評価システムと現象システムとの調和 (2)トータルシステムとしての共通性 (3)トータルシステムのとらえ方 6. 水計画と交通計画における現象システムの共通性 (1)緒論 (2)水計画と交通計画との対応関係 (3)現象システムにおける要因・要素の対応 (4)計画の評価のための指標 (5)まとめ 7. サブシステムの構成と手法 (1)サブシステムの構成 (2)サブシステムの構成の例と手法 (3)まとめ 8. まとめと今後の問題 ■第3編 第4回シンポジウム当日の討議(委員会)

土木計画学講習会テキスト 1 800円 (〒 70) 会員特価 700円

システム化, 調査方法と資料整理, 道路計画の基礎資料, 将来予測一般論, 港湾整備計画, 都市用水需要の将来予測など6編

土木計画学講習会テキスト 2 1200円 (〒 70) 会員特価 1100円

調査計画法, 情報の抽出と予測, 線形計画法, バイパス計画の実例, 水資源計画の手法

土木計画学講習会テキスト 3 1200円 (〒 70) 会員特価 1100円

都市計画の数学的手法, 観光計画の手法, 建設工事のための割当て問題, 待ち行列の理論, 工程管理のネットワーク, PPBSと公共施設計画など6編

国際会議ニュース

(1) 第5回国際金属腐食会議

主催：日本金属腐食会議を構成する 21 学協会
期日：1972 年（昭和 47 年）5 月 21（日）～27（土）
会場：東京プリンスホテル（東京都港区芝公園 3 号地）
会議テーマ（案）

- (1) 腐食過程の基礎的問題
- (2) 金属防食の工学的問題
- (3) 工業における腐食事故例と経験
- (4) 金属と合金の腐食に関するその他の問題

事務局：東京都目黒区中目黒 2 丁目 3 番 12 号
金属材料技術研究所 伊藤五郎気付

(2) International Symposium on Shell Structures in Fluid Environment, 1971

開催期日：1971 年 8 月 29 日～9 月 3 日

開催地：ハワイのホノルル

テーマ：(a) Effects of Fluid Environment

- (b) Analytical, Numerical, and Experimental Methods in Static and Dynamic Analysis of Thin and Thick Shells Partially or Totally Submerged
- (c) Conceptual Designs
- (d) Suitable Structural Materials
- (e) Construction Methods
- (f) Related Special Problems

その他：論文申込希望者は、短い abstract (6000 語) をつけて下記に申込むこと。採用論文は 1971 年 3 月 1 日までに提出する。

論文申込先および詳細問合せ：

Professor Rudolph Szilard, Chairman
Organizing Committee of IASS Symposium
1971-Hawaii
c/o University of Hawaii
Center for Engineering Research Honolulu,
Hawaii 96822, U.S.A.

(3) First International Conference on Structural Mechanics in Reactor Technology

日時：1971 年 9 月 20 日～24 日

場所：ベルリン

Topical Scope of the Conference：

- a) Structural Analysis of Reactor Components
- b) Interaction Between Structural Mechanics Science and Practical Engineering
- c) Mathematical-Physical Characterization of Materials
- d) Boundary Fields
- e) Computer Methods in Solid and Structural Mechanics
- f) Design Conditions: Reliability of Mechanical Systems

論文申込みについて：

1970 年 10 月 15 日	要旨受付最終日
1970 年 11 月 15 日	著者に連絡
1971 年 1 月 30 日	全文受付最終日
1971 年 3 月 31 日	上記に対する改訂申込受付最終日

Executive Committee：

J.H. Argyris (スツツガル工科大学, 有限要素法で著名)

Th.A. Jaeger (連邦立材料試験所 およびベルリン工科大学原子核工学研究所) (Grundzüge der Strahlenschutztechnik für Bauingenieur, Verfahrenstechniker, Gesundheitsingenieur, Physiker, Springer-Verlag, 1960, p. 392 の著者である一土木工学者で、こんな大著がある)

Z. Zudans (フランクリン研究所)

くわしくは、Neuclear Engineering and Design, 11 (1969), No. 2 参照のこと。

(4) 構造物に対する風の作用に関する第3回国際会議

(通称：耐風構造国際会議, 3rd International Conference on Wind Effects on Buildings and Structures)

標記の国際会議は本学会のほか日本建築学会、日本鋼構造協会共催、日本学術会議などの後援のもとに東京において開催されることになりました。主要事項は次のとおりです。

1. 日時・場所：1971 年 9 月 6 日～11 日（見学旅行を含む）東京（会場未定）
2. 登録：第 1 回サーキュラー（個人招待者）に配布済み、学会事務局にもあります）にある申込用紙による。

原則として参加人員は 250 人に制限しておりますが資格は問いません。ただし申込締切における状況に応じてオブザーバー制をとることがあります。

登録受付：〒100 東京都千代田区丸の内 3-2

新東京ビル 848 号 日本鋼構造協会気付

耐風構造国際会議組織委員会

3. テーマ

- (1) 強風の構造
- (2) 強風の統計的評価および設計風速
- (3) 風力の決定(過渡現象, 乱れの影響などを含む)
- (4) 風の作用をうける構造物の挙動(実測, 実験, 理論)
- (5) 耐風設計の規準および実際

4. 論文受付および印刷

- a. 1970 年 9 月 30 日までに上記 2. の登録とともにテーマおよび 100 語程度の要旨を添えて申込む。
- b. タイプ用紙 1 枚程度の論文概要を 1971 年 3 月 31 日までに提出し, これをプレプリントとして参加者にあらかじめ配布する。
- c. フルペーパーは 1971 年 4 月末日までに提出し, これはオフセットして会議当日配布される。
- d. 会議当日の討議, その他の記事を含めて後日プロシーディングスを刊行する。

なお, 論文執筆要領は具体的プログラムとともに, 第 2 回サーキュラーでお知らせします。

5. 参加費: 40 ドル (同伴者あるときは 55 ドル)

6. その他: 問合せは東京大学工学部土木工学科
伊藤 学助教授

(電 03-812-2111 内 3233, 3227) へお願い致します。

(5) New Zealand Institution of Engineers Annual Conference, 1971

開催期日: 1971 年 2 月 9 日 ~ 13 日

開催地: Auckland, New Zealand

テーマ: Engineering in the Seventies

連絡先: Mr. R.W.K. Stevens Secretary

The New Zealand Institution of Engineers
Molesworth House, 101 Molesworth St.
Wellington
New Zealand

(6) 「確率統計水理学に関する国際シンポジウム」 (International Symposium on Stochastic Hydraulics)

開催期日: 1971 年 5 月 31 日 ~ 6 月 2 日

開催地: アメリカ, ピッツバーグ大学

其 催: AGU (アメリカ地球物理学会)

ASCE (アメリカ土木学会)

IAHR (国際水理学会)

IASH (国際水分会)

連絡先: Professor Chao-Lin Chiu University of
Pittsburgh Pittsburgh, Pennsylvania 15213
U.S.A.

(または簡単なことなら東京工業大学土木工
科 日野幹雄助教授)

編 文: 原稿はシングルスペースで 25 ページ以内。
1970 年 11 月 1 日まで

お願い: 本欄は土木に関係の深い国際会議をより多く紹介し, 多くの会員が関連分野の国際会議に論文提出または参加できる機会をもつことができるように設けたものです。会員各位に個人的に連絡のあった案内等でも結構ですから国際会議の情報がありましたら下記により海外活動委員会まで連絡下さい。

1. 会議名/2. 開催期日/3. 開催地/4. テーマ/5. 論文提出方法/6. 締切/7. 提出先/8. 連絡先

土木振動学便覧編集小委員会編

土木技術者のための 振 動 便 覧

A 5・450 2400 円 会員特価 2000 円 (〒110)

基礎, 応用の 2 編に分け, 13 章に分類した土木に関係するあらゆる振動問題を取上げた便覧。付録として耐震規定, 耐風設計規定などを付す。機械, 建築など他分野からも評価が高い。研究者, 設計者, 実務者むき。

明日の国土を築く力 <高校土木教育白書>

土木学会土木教育白書編集小委員会編

A 5・308

700円(〒80円)

目 次

論 説

問題提起 若い土木技術者に期待する 工業高校卒業生に望むこと

1. 国土を豊かにする

1.1 今までの国土開発のあゆみ 1.2 豊かな国土とは 1.3 国土の条件 1.4 豊かな国土と土木技術 1.5 国土開発に挑んだ土木家

2. 高校卒土木技術者の活躍

2.1 アンケート調査の概要 2.2 調査の方法 2.3 卒業後の進路 2.4 中堅土木技術者の活躍 2.5 仕事と生活 2.6 卒業生から高校土木教育に対する要望

3. 高校における土木教育

3.1 学校調査の概要 3.2 土木科設置校の変せん 3.3 教育課程 3.4 施設設備と経営 3.5 職員 3.6 就職・進学 3.7 在学生の状況 3.8 定時制教育 3.9 私学教育

4. 職場における卒業生の活躍

4.1 官公庁における高校卒土木技術者の活躍 4.2 企業における高校卒土木技術者の活躍

5. これからの高校土木教育

5.1 工業教育の目的 5.2 教育課程 5.3 教育の現代化 5.4 進路指導

6. 高校土木教育の歩み

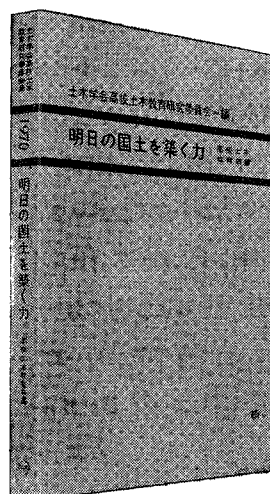
6.1 土木教育のはじまり 6.2 土木教育の成長 6.3 施設設備の変せん 6.4 教育内容の変せん

7. これからの土木技術の発展と建設業

付録1 私の歩んできた道

付録2 座談会—これからの高校土木教育に何を期待するか—

付録3 統計



内 容 紹 介

土木学会に高校土木教育研究委員会が設置されたのは昭和36年である。以来、研究会、講演会、実験実習指導書類の発刊など意欲的な活動を行ってきた。また昭和41年、工業高校における土木教育の状況や高校卒土木技術者の実態を調査し、潜在する問題を把握して、今後の高校土木教育のあり方を考えてゆく際の指針となり、同時に、土木技術者が国土建設の中で果している役割や実態を平易にのべ、一般の人々にも土木教育および土木技術者の正しい姿を理解できるような冊子を編集する企画をもった。

以来約4年にわたる調査、集計、検討、執筆などの作業の結果、今回発刊するに至ったのが本書である。

本書は、132の工業高校を対象にしたアンケート調査をはじめ卒業生1,433名、官公庁、企業を対象に広範な調査を行ない、これを分析整理したものを中心にまとめたがさらに大局的な立場から土木教育に対する学会、企業そして高校教育に長く従事されてこられた先輩諸氏の論説、卒業生各位からの貴重な体験談、土木工事の現場で活躍されている方々をまじえて教育現場の幹事が語り合った座談会、そして諸統計なども加えて、内容の豊かなものにすることができたと思っている。

本書の本文は目次のとおり7つの章より成っており、わかりやすくコンパクトな編集を心がけた。

欧文論文集 TRANSACTIONS OF JSCE 刊行のお知らせ

土木学会では従来の論文集の名称を論文報告集 (Proceedings) と改め、内容の充実にあたるとともに従来の欧文要旨を発展的に解消し欧文論文集を年2回刊行することになり、その第1冊目として今回 Vol. 1, Part 1, 1969 を刊行しました。つづいて近く Vol. 1, Part 2 を刊行し、45年度分として Vol. 2, Part. 1, Part 2, 1970 を刊行します。国際情報化が緊密化する今日わが国の研究水準を広く海外に紹介する意味において一人でも多くの方々に御購入方をおすすめし、多数の論文を海外へ紹介できるよう御協力下さるようお願いします。

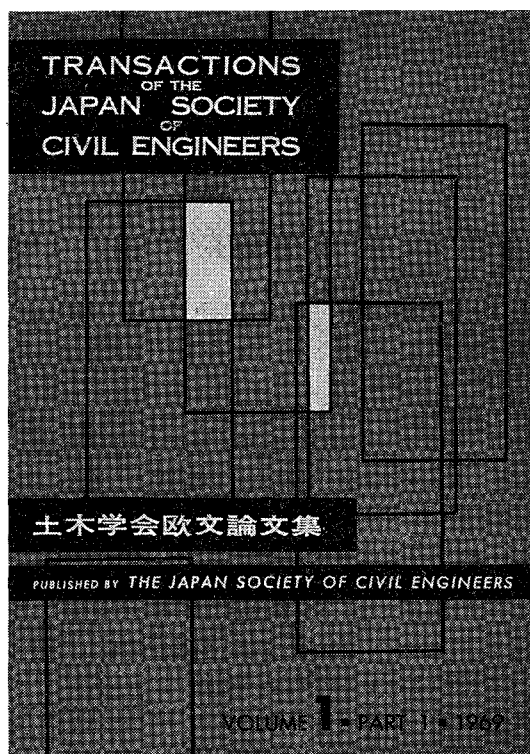
体 裁：B5判 180～200 ページ

論 文 数：13～25 編，ほかに要旨

定 価：1冊 1500 円，年間購読：2500 円
(送料とも)

申 込 先：土木学会へ

<欧文論文集の表紙>→



欧文論文集 (Transactions of JSCE) 予約購読申込書 (昭和 年 月 申込)

氏 名	名誉会員 正 会 員 特別会員 学生会員			印
勤 務 先			役 職 名	
勤 務 先 所 在 地			電 話	
現 住 所			電 話	
購読期間	年度から	年度まで	中止連絡まで	部 数
送 本 先	勤 務 先	自 宅	事務連絡	勤 務 先 自 宅
購読料金 払込方法 期 日	昭和 年 月	日現金書留，	振 替，	かわせ，持 参
その他， 学会への 通信事項				